

超高齢社会対応のまちづくり

秋山 弘子

東京大学高齢社会総合研究機構

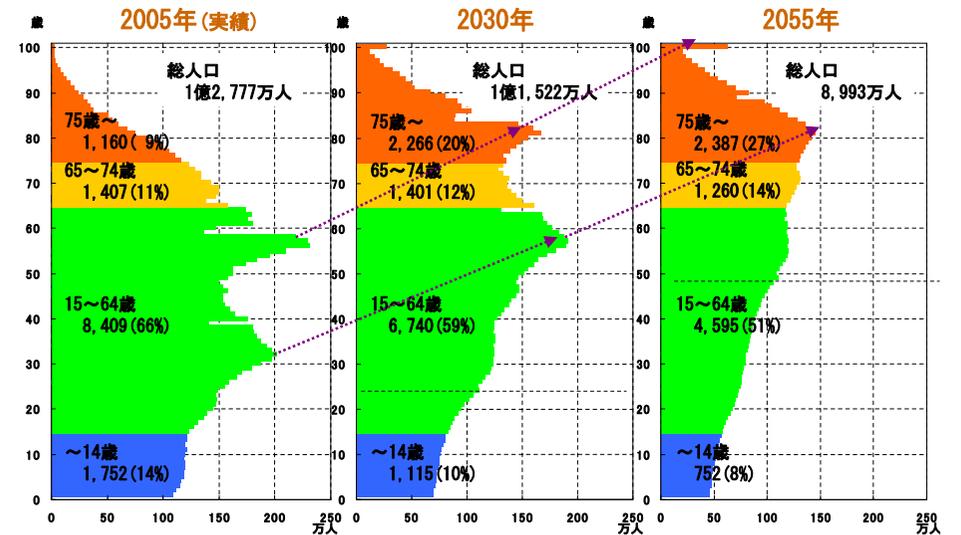
社会技術研究シンポジウム

2010年9月27日



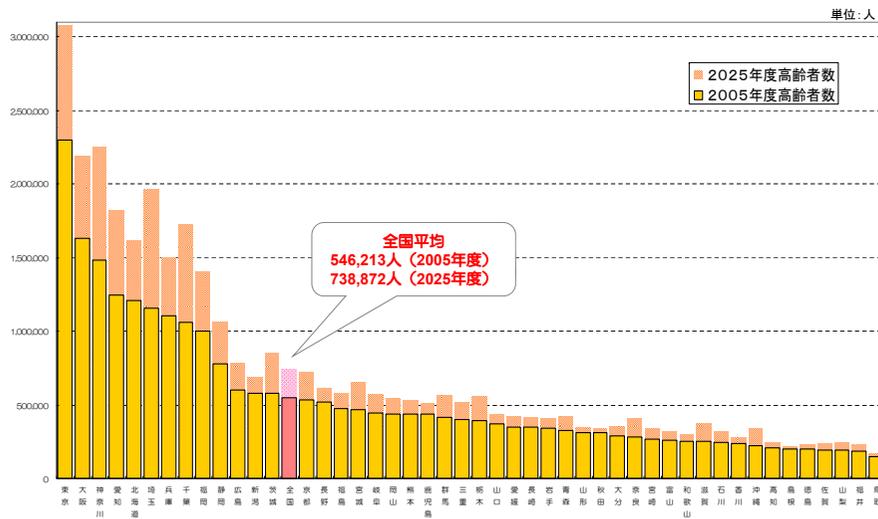
高齢者人口の高齢化

—平成18年中位推計—



注：2005年は国勢調査結果。総人口には年齢不詳人口を含むため、年齢階級別人口の合計と一致しない。

高齢化するのは都市人口



【資料】
2005年の高齢者人口については、総務省統計局「平成17年国勢調査第1次基本集計（確定値）」
2025年の高齢者人口については、国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口（平成14年3月推計）」

超高齢社会では…

認知症高齢者数の増加

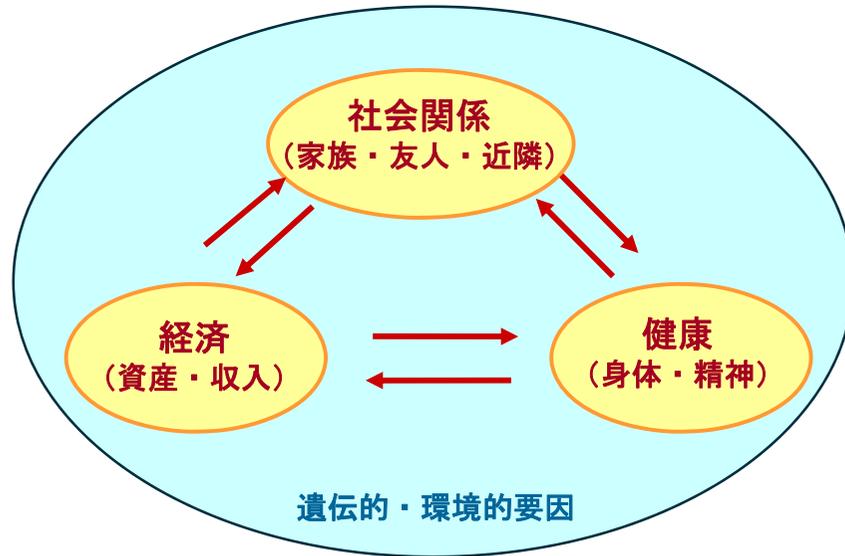
	2002年	2015年	2025年
認知症高齢者数 (万人)	149	250	323
65歳以上人口に占める割合 (%)	6.3	7.6	9.3

高齢者の世帯形態の将来推計

(万世帯)

	2005年	2015年	2025年
世帯主が65歳以上	4,904	5,048	4,964
一人暮らし (高齢世帯に占める割合)	386 28.9%	566 32.2%	680 36.9%
夫婦のみ (高齢世帯に占める割合)	470 35.1%	614 34.8%	609 33.1%

加齢による生活の変化: 全国高齢者パネル調査



5

調査方法

- 全国の住民基本台帳から60歳以上の住民を無作為抽出 (N=5715)
- 3年毎に訪問面接調査

6

パネル調査年

1 次調査	1987
2 次調査	1990
3 次調査	1993
4 次調査	1996
5 次調査	1999
6 次調査	2002
7 次調査	2006
8 次調査	2010 (生検導入予定)

7

機能的健康

得点

- 3 ADL、IADL ともに自立
- 2 IADL 項目に要支援、ADL 項目は自立
- 1 ADL、IADL ともに要支援
- 0 死亡

ADL questions (3項目)

- 風呂にはいる
- 短い距離を歩く
- 階段を2, 3段上がる

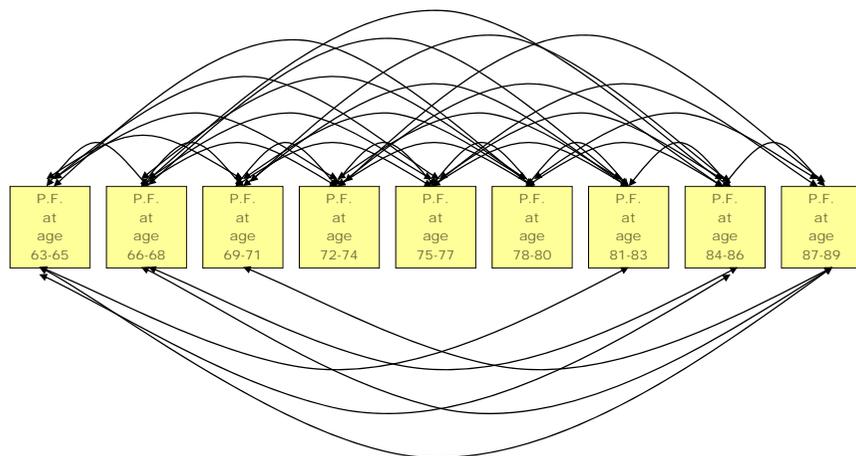
IADL questions (3項目)

- 日用品の買い物をする
- 電話をかける
- バスや電車に乗って外出する

8

潜在クラス分析: 分析モデル

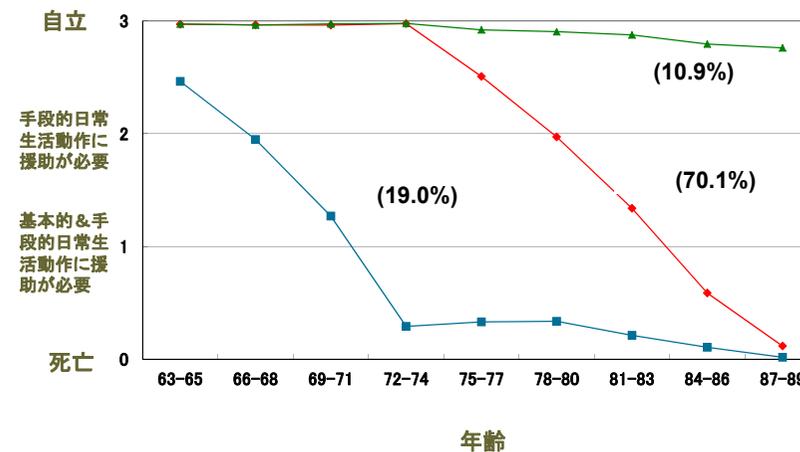
各年齢階級の平均値と分散を推定させ、そのパターンを探る



自立度の変化パターン

—全国高齢者20年の追跡調査—

男性

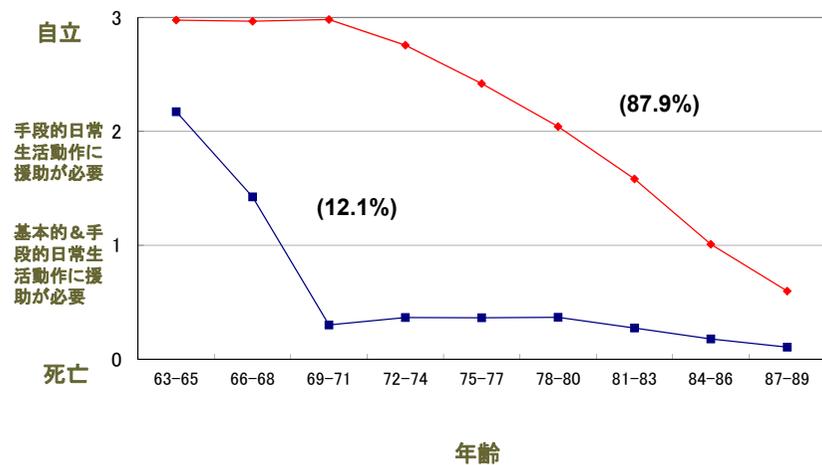


出典) 秋山弘子 長寿時代の科学と社会の構想 『科学』 岩波書店, 2010

自立度の変化パターン

—全国高齢者20年の追跡調査—

女性

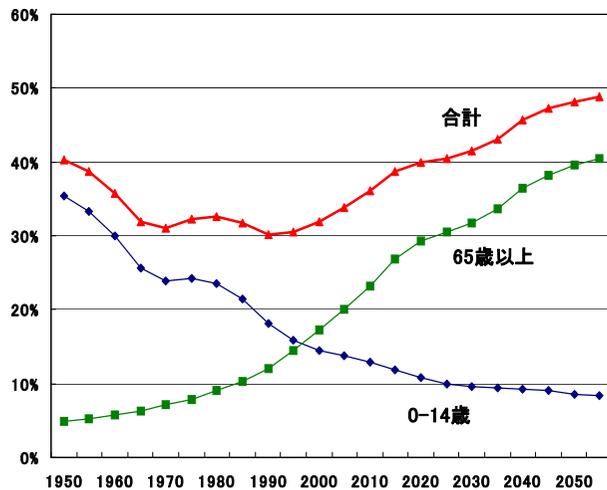


出典) 秋山弘子 長寿時代の科学と社会の構想 『科学』 岩波書店, 2010

何をなすべきか？

1. 自立期間(健康寿命)の延長
2. 住み慣れたところで日常生活の継続を支える地域医療・介護システム

地域密着人口の推移



(出典)2005年までは国勢調査、2010年以降は「日本の将来推計人口」(平成18年12月推計)

2つのコミュニティで社会実験



Aging in Place: 柏モデル

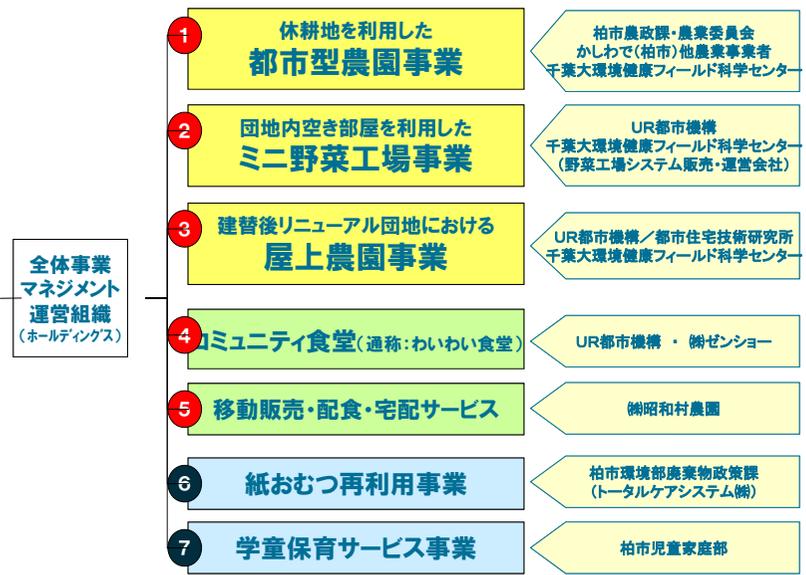


まちづくりの主要な領域

- 人の繋がり
- 就労・社会参加・生きがい
- 包括的医療・介護システム
- 情報システム
- 住宅
- 移動手段

2. 柏市における「生きがい就労」開発事業の全体概要

柏市豊四季台団地地域高齢社会総合研究会



“楽しく働く・遊ぶ” 場づくりの視点①：市民農園プラン！



“楽しく働く・遊ぶ” 場づくりの視点②⇒団地・周辺地域で



Aging in Place

住み慣れた所で安心して自分らしく年をとる

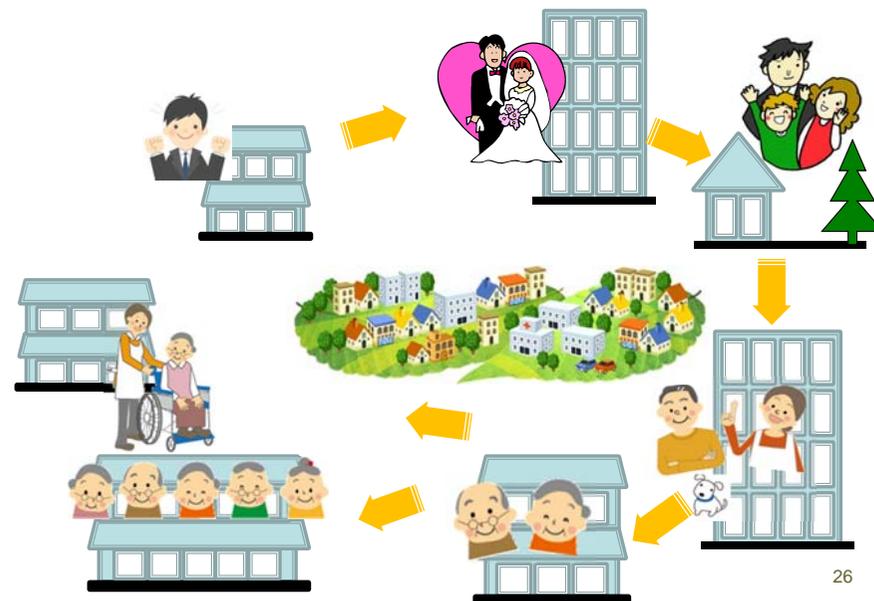
多くの後期高齢者が望むのは普通の生活ができること

地域における循環型住宅

- 住み慣れた地域でライフステージに沿った住み替え
- 日常性の継続
なじみの環境(街なみ、医療機関、商店etc.)で
顔なじみの人たちと暮らす

25

循環型住宅



26

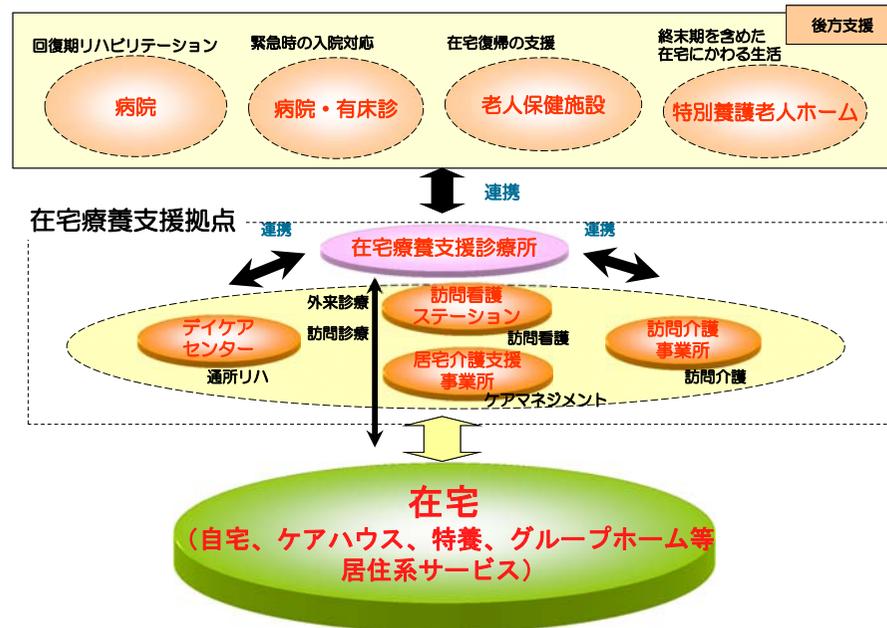
26

生活を支援する医療

Cure の医療 → Care の医療

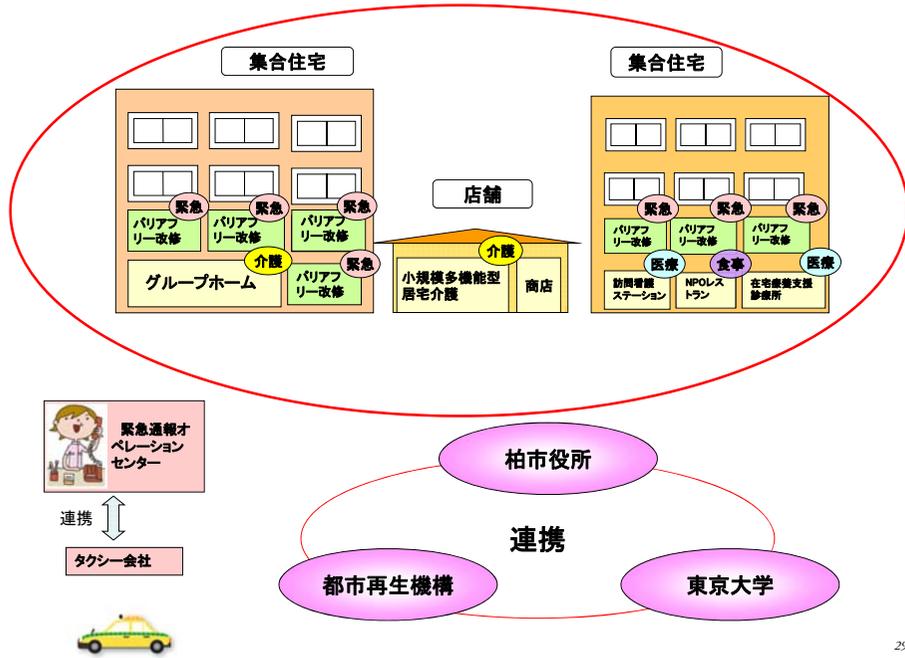
27

在宅療養支援拠点イメージ～地域で支えるケアの構築～



28

住宅政策との連携



超高齢社会の課題と可能性

